

生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム (Intergovernmental Science-policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services : IPBES)

【目的】 科学と政策のインターフェースの強化を通じ、科学を政策に反映させる

【経緯】

- ①2005年1月 フランス政府主催の生物多様性会議で、気候変動枠組条約のIPCCのような、生物多様性の動向評価等を行う政府間パネルの創設が提案。生物多様性に関する国際科学専門家機構(IMoSEB)に関する協議プロセスを開始。
- ②2007年11月 フランスで開催されたIMoSEB国際運営委員会は、国連環境計画(UNEP)事務局長に対し、フランス政府や生物多様性条約(CBD)事務局等と協力し、政策と科学の効果的なインターフェースの構築を検討するための国際会議の開催を要請。
- ③2008年11月 マレーシアでUNEPがIPBESの第1回マルチ・ステークホルダ会合を開催し、活動や様態について検討。UNEPが更なる分析を行い、結果を第25回管理理事会に提示すること等を勧告。
- ④2009年2月 ナイロビで開催されたUNEP第25回管理理事会において、今後の協議プロセスを継続することを決定。
- ⑤2009年10月 ナイロビで開催されるIPBESの第2回マルチ・ステークホルダ会合において、更なる議論を実施。

【論点】

- ・IPBESの設置については、積極的な推進を主張する国がある一方で、その位置づけや担うべき役割の範囲等についての慎重な検討を要請する国があるなど、コンセンサスが得られていない。
- ・我が国は、科学及び政策のインターフェース強化の重要性を認識し、本プロセスを推進すべきとの立場であるが、効率性を図るため他のメカニズムとの重複を回避し、生物多様性に関する多くの条約を包含するとともに、多くのメンバーが参加できるものにすべきであると考えている。